



2008年1月より英国オックスフォードにて研究留学しています。

オックスフォード大学はイングランド中央に位置するオックスフォード市に11世紀頃創設された大学で、約40の独立したコレッジにより成り立っています。学生たちは、学科とこのコレッジの両方に属しながら学生生活を送るそうです。ほとんどのコレッジは街の中心地に位置しているため、学期中、街は多くの学生であふれています。

オックスフォードは一年中観光客が絶えることのない歴史ある重厚な町並みでありながら、一方では若々しさあふれる賑やかで活気のある美しい街です。また、オックスフォードの西側に広がるコッツワルズ地方は、イギリスで最も美しい田園地帯の一つと言われています。私も一度訪れましたが、少し高低のある地形に小さな村々が点在し、そこに広がる緑と建物に使用されているライムストーンの淡い色のコントラストの美しさは大変美しく、何度も足を運びたくなるほどです。そして、この風景をいつまでも守っていこうとするイギリス人の感性に触れるにつけ、日本におけるやや行き過ぎともとれる宅地化に少なからず疑問を感じたりします。

有名なイギリスの天気はその評判通りで、一日に四季があると言われるくらい朝から夜まで目まぐるしく変わります。そして天気予報は外れるのが当たり前です。そのため外出時には傘の携帯が必須です。また、イギリスには日本で言うところの暑い夏はなく、7月、8月でも雨が降れば気温が20度以下になってしまうため長袖は手放せません。日本と違い夏の天気は安定しないようです。一方、5月、6月はイギリスで一番美しい季節です。5月頃からは夏至に向かって日が次第に長くなり、陽の光も濃くなります。この時期、庭先

にバラが咲いている様子は、まさにイギリスと言ったところでしょうか。

夏至に向かうこの頃、日中の気温が20度を超えると、イギリス人にとって気分はもう夏です。街中の人々が夏服に着替え陽の光を満喫し、公園で日光浴する人まで出現します。日本にいる時の感覚で、まだ6月だからと長袖を着ていたりすると、半袖を着ることなく夏が終わってしまうという残念な結果にもなりかねません。「晴れた、暖かそうだ」と思ったら即夏気分になるのがイギリスにおける夏の過ごし方のコツのようです。

さて、現在私は Department of Clinical Pharmacology に所属し、ラボでは大腸がんの治療予測マーカーの研究をし、週一回病院で大腸がんの化学療法外来の見学をしています。研究グループは、Kerr 教授の下、consultant の Dr. Midgley, ポスドクの Dr. Johnstone, 私そして4名のテクニシャンでチームを組んでいます。Kerr 教授は新しいことに挑戦するのが好きで、豊富な臨床経験から生み出される新しい臨床 trial を同時に複数行っています。我々はその trial に参加している患者さんの臨床検体を使用して様々な研究を行っています。このグループの目標は、がんのテーラーメイド治療の確立です。私もそこに微力ながら関わらせていただいています。

ところで、ご存じのようにイギリスは医療費が無料で、私のような外国人でも6カ月以上の滞在予定があれば地域の GP (General Practitioner) に登録しイギリスの医療サービスが無料で受けることができます。しかし無料であるがためにそれなりの制約もあります。特徴的なのは、体の調子が悪くなったらとにかくまず GP に行き、そこで精査が必要と判断されて初めて病院へ紹介してもらえるということです。医療費の高騰を抑えるための一つの手段である一方、病気の発見は GP の能力次第というところもありそうだと思います。

こちらにきて1年半が経ちました。センスの問題か年齢の問題か、いまだ英語には四苦八苦していますが、お陰様で素晴らしい仲間たちに囲まれて生活できていることをまず感謝したいと思っています。そして、いち早くがんの化学療法専門医の必要性を感じ、私の興味をその分野に向けて下さり、今回の留学に際してご尽力くださいました故丸田福門先生と、人員不足で大変な折りにこのような機会を与えてくださいました宮川教授をはじめとする第1外科の皆様深く感謝申し上げます。

(2009年9月)

(信州大学医学部外科学(1)講座所属)